

# ミッションスクールから見た伝道の可能性：一考察

著者	高橋 恵一郎
雑誌名	キリスト教と諸学：論集
巻	Volume30
ページ	133-158
発行年	2017-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1477/00002352/">http://id.nii.ac.jp/1477/00002352/</a>

## ミッションスクールから見た伝道の可能性…一考察

高橋 恵一郎

### (はじめに)

常日頃よりのご指導を心より感謝いたします。教会あつてのミッションスクールです。皆様のご来校を心から歓迎いたします。私からはタイトルにある通り、「ミッションスクールから見た伝道の可能性」について、お話いたします。

発題の流れについてお話しします。はじめに中学生高校生の世代の宗教観・キリスト教観について、続いて本校で行われている教会レポートを通して見えてくるものについて、その後、生徒の教会出席より考えられることについて、最後に課題と希望の順でお話しいたします。

教会の置かれている状況については東京基督教大学国際センター日本宣教リサーチのデータブック(JMR)「宣教の革新を求めて データから見る日本の教会の現状と課題」及び、ホームページで報告される「JMR教会レポート」、あるいは日本基督教団の教団年鑑の資料より垣間見ることができます。今回は、そうしたデータについてはテ-

マではないのでお話しすることはできませんが、状況はよくありません。日本という国の抱える問題があり、教会の抱える固有の問題があります。絶望的ですからあります。しかし、希望があります。それは皆さんです。若い魂のために祈り、心を砕き、迎え入れてくださる皆さんがいらしてください。そこを教会の希望です。

### 〔中学生高校生の世代の宗教意識・キリスト教観 One Hope のアンケートより〕

さて、はじめに中学生高校生の世代の宗教意識・キリスト教観について考えます。実験的なものとしてお聞きください。

若い世代への伝道を使命として世界各国で活動を展開している One Hope という団体があります。ブライアン・スナーダー先生が長く日本でお働きでしたが、宣教師の宇賀飛翔先生がディレクターとしてその働きを継承していらつしやいます。冊子配布や携帯やタブレットなどのための聖書アプリ等による伝道活動を行っておられます。伝道のための新しい小冊子作成に当たり、宇賀先生が池袋・原宿・渋谷に実際に足を運ばれ、道行く人にアンケート調査を行われました。

#### ケース一 一般の回答から

三十九通の回答が得られたとのことです。付録一は宇賀氏の調査によるナマの回答の一部です。ここでは十六歳の方々による回答二十三通を対象とし、そこから見る事ができるものについて簡潔にお話をいたします。

オーム真理教の事件以降、宗教への嫌悪感や警戒感が蔓延しているのではないか、宗教離れが起こっているの

はないかと私は想像していました。皆さんはどのようにお感じでしょうか。地下鉄サリン事件は今なお記憶に新しく、その影響は続いているように思われます。しかし、その事件はもう若者にとつては過去のものとなっています。アンケートからは事件の影響による宗教離れの傾向を見て取ることはできません。キリスト教については偏見というよりむしろ情報不足が目立ちます。キリスト教に対する敵対的、排他的回答も見られませんでした。主イエスをめぐる問いについても、マイナスイメージは見られません。すごい人、優しい人等、プラスのイメージが目立っています

#### ケース二 ミッションスクールの回答から

では、これとまったく同じアンケートを女子聖学院で行ったらどうなるのでしょうか。機会を得たので、昨年の秋、高校一年生を対象に一クラスのみですが行ってみました。回答するかしないかは自由です。二十五の回答を得ることができました（付録二）。

先のアンケート結果が不特定多数の若者を対象としており、それと同じように分類することは少々無理があるように思われましたが、それなりの特徴を見ることができました。

面白いのは仏教との関わりの発言が一つもなかったことでした。教理的内容を理解していない回答が一定数見られた一方、神を創造主として正しく理解している回答もありました。また一般の若者の回答には神や主イエスを超越的存在として捉える理解が見られましたが、生徒の場合は神を身近な存在として捉えるケースが複数ありました。特にイエス・キリストとの関連ではそば近くにいてくださると感じているという回答が複数見られます。私たちの救い主、私たちの罪を背負って十字架にかかり亡くなり三日後に復活された方、いつも私たちのそばにいてく

れる、何かあった時にそばにいてくれる人などと、自分との距離の近さを答えたケースが五つあり、全体の二十パーセントを占めていました。クリスチャンになる可能性については「はい」という回答が三名、中間に印をつけた回答が一名であり、一般の回答とは著しい相違が見られます。「いいえ」という回答も必ずしもキリスト教を否定しているわけではありません。「まだ、神様のことをよく知らない」「興味がないわけではないが」という回答もあり、十分な量の正しい情報が加わるにより回答内容が「はい」に変更される可能性を含んでいます。

### 〔教会レポートより見えるもの〕

さて、女子聖学院では生徒に教会レポートの提出を課しています。本校は二期制（前期・後期）を採用しているので、前期後期それぞれに通ずつ、合計二通の提出が求められています。教会レポートには二種類の取り組み方が可能です。一つは多く礼拝に出席することを必要とする礼拝多数出席型。この場合は二百字程度の感想文一通と四回以上の礼拝出席が必要です。もう一つは一発型。礼拝に一回出席して四百字程度の説教要旨と二百字程度の感想文を書いてもらうものです。

#### ケース一 教会レポート 心に残る言葉

礼拝多数出席型を選んだ場合、心に残った言葉を書くように指示を出してあります。今までは、注目してきましたんですが、ここにこそ生徒が聞いてきた言葉が凝縮されているのかもしれないと思い、今回は中一と高三の生徒が書いたものを掲載しました。これは、生徒の内側に入り、心に残り、後からアウトプットできた言葉です。言い

換えれば胸に響いた言葉ということ。中学生・高校生の頃の感受性は鋭く、敏感です。生徒たちが教会で聞いた神様の言葉を深いところで受け止めている可能性を垣間見ることが出来ます。付録三をごらんください。

#### ケース二 教会レポート 感想から

続いて教会レポートの作文です。付録四として四つほど掲載いたしました。教科として提出を求めている課題です。教会を正面から否定する内容のものはありませんが、生徒はかなり正直に書いています。高校三年生では、むしろ最後のレポートに教会に通うことができたことの幸せを書いているものもあります。

#### 〔教会出席より見えるもの〕

次は教会出席から見える生徒の姿について考えてみます。生徒の教会への思いはどのようなものでしょうか。生徒は義務として礼拝に出席しているだけなのでしょう。時にはクリスチャンホームの子弟でも教会に行くことを厭うことがあります。皆さんは、どう想像なさいますか？

#### ケース一 義務としての礼拝出席をする生徒

もちろん義務として礼拝出席をしている生徒が多数派でしょう。二〇一一年度に行った意識調査によるデータを表とグラフで表してみました(図一・図二)。ほとんどがレポート提出のために礼拝に出席していることが分かります。

礼拝出席頻度	人数
ほぼ毎日	129
月に一～二回	374
クリスマス等	50
レポートの時	496

図1

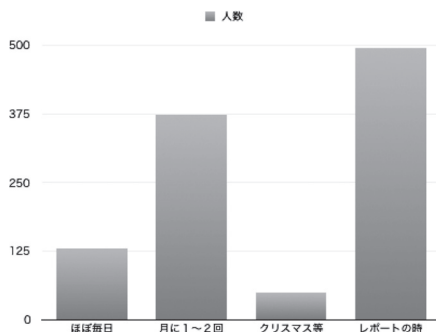


図2

しかし、その場合であっても一回の礼拝で済ませる生徒もいますが、四回の礼拝に出席してレポートを作成する生徒も少なくありません。複数回教会に通うことを通して、教会・礼拝・クリスマスチャンへの意識が変わる場合もあります。少なくとも教会というものへの完全な無知状態はなくなります。

### ケース二 十四回以上の礼拝出席をする生徒

十四回以上、礼拝出席した生徒には記念品をプレゼントしています。人数になると百名ほどになります。前期・後期一回ずつのレポート課題ですので、二十回ほどおとされる日曜日の中の十四回はかなりの出席数となります。この生徒たちはどのような思いで教会に通っているのでしょうか。数年前にアンケートをとりました。なぜ、あなたは教会に行くのですか？ と。

教会での態度や礼拝への参加姿勢が褒められたものではない生徒もいます。しかし、そうした生徒が表情や態度とは裏腹に、教会に安らぎを見出し、違場所を見つけ、喜んでいました。少なくとも、そういうケースが相当数ある、ということでした。驚きました。

(課題)

・教会学校から聖日礼拝へ

課題の一つは、そのようにして喜んで教会に連なっている生徒が学校卒業後、教会から足が遠のいてしまう現実です。言い方を変えれば、教会学校と大人の礼拝との連動の問題です。例えばミッションスクールと深い関わりを持つ教会では幼稚園児・小学校児童・中学生・高校生を含めると百名以上の教会学校出席者があります。しかし、卒業後大人の礼拝につながることは稀です。もし、教会学校から大人の礼拝への連動が生じれば、教会が迎えている危機的状况は一変することとなるでしょう。

・受洗者のケアについて

信仰を与えられ、洗礼に導かれる生徒がおります。大変に嬉しいことです。しかし、そこで安心してはいけな**い**と思うのです。むしろ、大切なのはそこからのケアです。在校中に受洗し、今年の春卒業した一人の生徒の教会レポートを紹介いたします。ここには受洗後の心の動きが記されています。

受洗してから半年以上が経ちました。この半年で、何度も信仰が落ち込む時期がありました。聖書を読むこともお祈りをすることもできませんでした。そんな信仰の弱い自分に腹が立ったり、情けなく思ったりして、さらに信仰が落ち込んでいきました。ですがそんな時、教会には祈ってくれている信仰の友がいました。直接話を聞いてくれたり、連絡



をくれる信仰の先輩がいました。信仰者の一人として私は受け入れられていて、支えられていることを感じました。受洗前に聞いた、一人一人は弱いけど、だからこそ皆で祈り支え合うことが大切という言葉思い出しました。まだまだ弱い信仰だけど、いつか私も誰かを祈り支える存在になりたいと思いました。

ご理解をお願いしたい点があります。それは信仰を受けた生徒は歩き始めた赤ちゃんである、ということですが、サタンは撒かれた御言葉を奪い取ろうと狙っています。高校生ともなると体も大きく、また受け答えもしつかりしで見えるかもしれませんが、年齢的に言ってもまだ子どもです。ましてや信仰の意味では、生まれたばかりです。大切なのは洗礼を受けてからの成長です。植えたばかりの木には水やりが必要であり、見守りが必要です。それは若い受洗者（特に中学生高校生）に対しても同じことが言えます。大切な苗木を育てる思いを持ってご対応をいただければ幸いと存じます。それは簡単なことではありませんが、心を込めて育てればやがて大きな木へと成長するでしょう。

### 〔希望〕

#### ・卒業後の教会との関わり

先ほども申し上げたように、女子聖学院の場合であれば百名ほどの生徒が日曜ごとに教会に通っています。課題は、高校卒業後にあります。教会が大好き、もう十分、と言っていた生徒が教会に行かなくなります。常時教会に通う生徒が、毎年、女子聖学院だけでも二十名近く卒業します。中高一貫の六年というサイクルで言えば、教会を

愛する生徒が百名以上も卒業しているということになります。

ここで聖光学院さんがおまとめくださったデータの一部を紹介いたします（図三『二〇一三年度キリスト教教育同盟加盟学校（北海道・東北・関東）学校礼拝・聖書の授業・宗教教育等の実態調査結果の一覧 学校法人聖光学院高等学校』より）。

ごらんにいただと分かるように、受洗者が二十名以上という学校があります。本校より規模の大きなミッションスクールも多くあります。おそらく、ここでも同じように教会を愛する生徒が多くいることでしょう。そのような生徒が多くのミッションスクールから毎年卒業しています。しかし、卒業後、教会から足が遠のいていくのです。残念なことです。しかし、ここには希望につながる扉の鍵があると行って良いのではないかとも思います。この事実は信仰に対して心を開いている卒業生がそれぞれの地域に数多く存在しているということでもあります。卒業生は学校を巣立ったのち、新しい生活の中で不安を覚えています。実は、その時こそ教会が必要な時ではないかと思えます。やがて、女子であれば結婚があり、出産と子育てに直面します。それは苦しく、辛い時でもあります。そのときこそ、教会に戻りたいと願う時です。教会に救いを求めている卒業生がどれだけ多くいることでしょうか。私たちがしているのは霊的な戦いです。魂をかけた命掛けの戦いです。厳しい戦いですが、主は勝利者です。伝道を行っているのは、私たちだけではありません。他にも若者に心を砕いてくださっている諸団体もあります。思いつくままに幾つかを紹介いたします。

高校生聖書伝道協会 通称 hi-b. a. (high school born againers)

YMCA YWCA

	受洗者	礼拝
浦和ルーテル学院	15	毎日
立教 新座高校	5	毎日
千葉英和高校	不明	毎週月曜
青山学院高等部	5	毎日
自由学園 高等科	無回答	毎日
啓明学園高校	不明	毎週月曜
恵泉女学園中・高	20	毎日
香蘭女学校	4	毎日
国際基督教大学高校	1～2	毎月一回程度集会
明治学院高校	回答なし	毎日
明治学院中学 東村山高等学校	14	毎日
立教 池袋高校	4	毎週水曜日に全校礼拝 毎週一時間の学年礼拝
立教女学院高校	不明	不明
聖学院高等学校	10	毎日
女子聖学院	16	毎日
頌栄女子学院 中高等学校	3	毎日
玉川聖学院高等部	20	毎日
東洋英和女学院	21	毎日
フェリス女学院高等学校	回答なし	毎日
アレセア湘南中学高校	未調査	毎日
捜神女学校高等学部	10	毎日
横浜英和女学院高校	8	毎日
横浜女学院	0	礼拝堂では中学二回、高校二回。全校放送礼拝。残り二回は教室でデボーション。
横浜共立学園	5	毎日

図3

キリスト者学生会 通称 KGIK

キャンパス・クルセード・フォー・クライスト

ファミリー・フォーラム・ジャパン

チア・につぼん

四ノ一四ムーブメント

ワン ホープ

施設（松原湖バイブルキャンプ、奥多摩福音の家、奥多摩バイブルシャレー）

こうした諸団体との連携はこれからいよいよ重要なこととなっていくのではないかと考えています。主に知恵を求めつつ、希望を持って前に進むものでありたいと思います。

最後に一つお願いがあります。どうか私たちのために祈ってください。お願いいたします。私たちも皆様の教会のためにお祈りをさせていただきます。

付録一 One Hope アンケート回答

渋谷・原宿・池袋 十六歳の方々による回答 二十三名

「神」「神様」とはどんな存在かと聞かれたら、どう答えますか？

絵本の中

すべてを作った人

自分の尊敬できる存在

すべてを任せられる人

すごい人

正しい道に連れて行ってくれる人

人生のヒント教えてくれる人

人の心の支え

何でも願いを叶えてくれる

人間が作った偶像

人々を遠くから見守ってくれる人

想像のもの

自分!!

イエス・キリスト

神頼みの相手

人間じゃない

一番偉い

人を助けてくれる人

神秘的で想像上の世界に入るもの

人間の作り出した空想のもの

とてもすごい人

すごく大きな存在

幻想

「聖書」って何ですか？ どんなイメージですか？

厚い本

この世のものごとを記した本

英語でいっぱい書いてある感じ？

難しい

特にない

人生で迷った時に答えにつながるヒントを教えてください

人を救う書

人間の想像の産物

清いことしか書いていない

キリスト教の経典

古くから伝わる偉大な本

正しいことが書いてあるもの

字がいつぱいの本  
堅苦しい  
神を信じている人たちの本  
本

長い文

キリスト教

文字が多くて分厚い

キリスト教のイメージ

決まり？

キリスト教みたいなき感じ

イエス・キリストはどんな人かと聞かれたら、どう

答えますか？

歴史上の人物

聖痕がある人

人のために道や教えを作る人

すごい人 二名

神様 三名

困った時に

十字架

人に崇められた人

自分よりも人のことを考えている人

昔からの神々に仕えていた人  
一回死んで生き返った人  
優しい人

いろいろ我慢した人

キリストの人

アメリカ

十字架で処刑された人

アメリカとかの神様

分らない 二名

あなたがクリスチャンになる可能性はありますか？

すべて 「いいえ」

何にも属そうとしないから

興味があまりない 二名

そんなすごい人じゃないから

別の宗教に入っている

神を信じていない

生まれた時から普通の人と決まっているから

自分を信じて生きる!!

そんな才能はどこにもない

面倒なのは嫌いだから

そういうのは苦手だから

あまり信じない  
届かない存在だから  
仏教徒なので  
自分が正しいと思つたことを信じたいから

詳しくまだ知らないから  
普段はそんな信仰などをしていないから  
分からないから 二名

付録二 One Hope アンケート回答

女子聖学院 生徒による回答 高校一年生 十五〜十六歳 二十五名

「神」「神様」とはどんな存在かと聞かれたら、どう  
答えますか？

自分を強めてくれる存在  
みんなのことを知り尽くしている存在  
みんなを守ってくれている存在  
何でも分かっている存在  
この世の偉い人  
すべてで見ている方  
すごい人  
強い存在  
人間を造つた方 二名  
そばにいる存在

分らない  
何でもできる人  
雲の上の人  
何でも知っていてくださる存在  
神様  
私たちを守り、導いてくれる存在  
空にいる  
トップ  
人の支えとなるもの  
雲の上  
イエス  
見守ってくださいる

「聖書」って何ですか？ どんなイメージですか？

アドバイスをくれる

神様についての本

人生において大切なことが書かれている本

何か迷ったり悩んだりしたら解決法とか心の支えになる言葉が載っている聖なる本

生き方のヒントが書かれている

昔の物語

イエス・キリストの話の本

神様の言葉

たまに心にくることが書かれている

堅苦しい感じのことが書いてある

毎日読むもの

幼い頃からあったもの

大切なことを教えてくれる本

キリスト教のイメージ

分厚い本 四名

人の道しるべ

神様について書かれているところ

旧約は自業自得で新約は物語

昔のことを書いた本

イエス・キリストはどんな人かと聞かれたら、どう答えますか？

すごく優しい人

人間の罪を背負ってくれた人 二名

いつも私たちのそばにいてくれる人 二名

いい人

私たちの救い主

私たちの罪を背負って十字架にかかり亡くなられ三日後に復活された方

人々を大切に思っている人

心が大きい人

キリスト教の神様 二名

ロン毛

神

神の使い

パンを分ける人

完璧な人

何かあった時にそばにいてくれる人



あなたがクリスチャンになる可能性はありますか？

はい 三名（内一名はクリスチャン）

好きな人がクリスチャン

最近よく教会に行くから

もうなつています

中間 一名

今は分からない

いいえ 二十一名

まだ、神様のことをよく知らない

将来あまり必要としていないから

特にない、興味がないわけではないが、クリスチャンになるほどではないと思っている。

なんとなく全部信じられないから

特に興味はない

どの宗教もよく分からない

一つの宗教に偏った考えをしたくないから

信じてないから

無宗教でいたいから

### 付録三 心に残った言葉（教会レポートより）

〔高校三年〕

・いつも何か課題にぶち当たる。でも神様が助けてくださるから、課題があつても楽しみになる。

・あなた方に命じておいたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつもあなた方と共にいる。

・人間が、生きていく上で辛いことはどうしたつてあります。どうしたつて逃げられません。言い訳をする人は神様の前でも言い訳ができていますか。

・命ある限り恵と慈しみはいつも私を追う。

・門を叩け、そうすれば開けてもらえるであろう。

・いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。これがキリストイエスにあつて神があ

- ・なた方に望んでおられることです。
- ・強く祈れば叶う。
- ・私は良い羊飼いです。
- ・自分の命を救おうと思うものはそれを失い、私のために自分の命を失うものはそれを救うであらう。
- ・しかし、私と与える水を飲むものは決して渴かない。私と与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水が湧き出る。
- ・キリストのおかげで私たちは恐れることなく神の御前に立つ喜びが感じられるのである。
- ・無理をしてはダメ。
- ・神は真実である。私たちを耐えられないような試練にあわせることはないばかりか、試練と同時に逃れる道も備えてくださるのである。
- ・信じない者でなく、信じる者になりなさい。
- ・神様は時には私たちが思ってもみなかった方法で、私たちを救ってください。
- ・命あるすべての者に主は食物を恵まれる。
- ・主と歩く。
- ・人はすべて聞くに早く語るに遅く怒るに遅くあるべきである。
- ・愛されている自分を受け入れる。それを同じように周りの人も愛する。
- ・今やもはや戦後ではなく戦前なのかもしれない。
- ・おおよそ、自分を高くするものは低くされ、自分を低くするものは高くされるであらう。
- ・与えられた賜物を与えられるだけでなく自分で強めて生かすのだ。
- ・必ず朝はやつてくる。
- ・キリストに対する恐れを持って、互いに仕えなさい。
- ・私は葡萄の木、あなた方は枝である。もし、人が私につながっており、また私とその人につながっておれば、その人は実を豊に結ぶようになる。
- ・神様はずっとそばにいてくれる。

- ・すべての逆転現象は神を認めようとしなかったことに原因があるのです。
- ・隣人を許し、兄弟姉妹として愛すること、イエス様を愛することとは決して別々のことではないのです。
- ・神様はいつもあなたの心を見守っている。
- ・心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。
- ・ヨハネの福音書に出てくる病人のようにイエス様を大切にしないようなことはせず、私たちは神様に賛美し、イエス様をほめたたえよう。
- ・この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている。
- ・シャローム!!
- ・人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるものである。
- ・イエス様の言葉には私たちが思いもしないほどの力がある。
- ・神はいつも共におられる。
- ・愛することは待つことです。
- ・神様と共にいる。
- ・信仰の薄い者たち。思い悩むな。
- ・求めよ、そうすれば与えられるであろう。
- ・主よ、あなたはなぜこの民をひどい目にあわされるのですか。
- ・母に感謝。
- ・私たちを見ている神様。
- ・信じるものが皆、人の子によって永遠の命を得る。
- ・神様が道を導いてくれる。
- ・喜びとは信仰を結ぶ実です。
- ・これはイエス・キリストの体です。
- ・ふさわしくないものを招く神の恵みの深さ。

- ・ 神様はどんなことでも祈りを聞いておられる。
- ・ 神様の宝は私たち。私たちは宝と言った宝に祈りして、感謝する。
- ・ あなた方は憂いているが、その憂いは喜びに変わるであろう。
- ・ 人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きている。
- ・ あなたの隣人を大切にせよ。
- ・ 子があなた方を自由にするなら、あなた方は本当に自由なのです。
- ・ あなた方の中で罪のないものが、まずこの女に石を投げつけなさい。
- ・ 命を生き始めている。
- ・ たとい死の陰の谷を歩くことがあっても、私は災いを恐れませぬ。あなたが私と共におられますから。あなたの鞭とあなたの杖、それが私たちの慰めです。
- ・ 君たちがいてくれて助かっている。感謝している。
- ・ 神様なら、何でもできる。
- ・ 羊飼いなさい。
- ・ 安息日を心に留め、これを聖別せよ。
- ・ 神はいつも私たちと共にいらつしやる。
- ・ 人の役に立ちなさい。
- ・ 真の友とはどんな時にも愛し続けるものであり、苦難の時のために生まれた兄弟である。
- ・ いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
- ・ 主は常に私と共にいておられる。
- ・ 鞭は先に金具をかけてあり、野獣を追い払うために用いられ、杖は羊の数を数えるために用いられた。つまり、羊飼いは常に羊を心配し管理してください。だから慰めがある。
- ・ あなた方は、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみも賜ったのです。
- ・ 信仰によって生きる。

- ・隣人を自分のように愛しなさい。
- ・主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。
- ・忘れても思い出させてくれる。
- ・平和を作るものは幸いです。
- ・信じないものではなく、信じる者になりなさい。
- ・自分の夢。
- ・祈ってごらん、分かるから。
- ・想い起こす。
- ・ペテロに、私に従いなさいと言われた。

(中学一年)

- ・主の御業。
- ・神様。
- ・あなた方が私を選んだではありません。私があなただ方を選び、あなた方を任命したのです。
- ・神様の家族。
- ・信じるものが皆、人の子によって永遠の命を得る。
- ・最も大いなるものは愛である。
- ・神様は私たちを愛してください。
- ・イエス様は死ぬためにこの世に生まれました。
- ・私は蘇りです。命です。私を信じるものは死んでも生きるのです。
- ・私が行って癒してあげよう。
- ・私の愛の家にいなさい。
- ・あなた方が私を選んだのではない。私があなただ方を選んだのだ。あなた方が実を結ぶようにと私があなただ方を選んだので

ある。

- ・神様を信じるものはみんな家族である。
- ・私たちは天国に行けるチケットを持っている。
- ・私はあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。
- ・そう言つて、彼らに息を吹きかけて仰せになった、聖霊を受けよ。
- ・七回どころか七の七十倍まで許しなさい。
- ・今日皆さんはキリストのもとに来るよう招かれています。あなたの心を洗い清めてくださるように神に求めるためです。そうして噂話や中傷も悔い改めるように。クリスチャンでありながら、この世の影響をもろに受けていたことを悔い改めるためです。
- ・その翌日、ヨハネは自分の方にイエスが来られるのを見て言った。見よ世の罪を取り除く神の子羊だ。
- ・悪いものは外から来るのではなく、内から来るものである。
- ・喜び踊れ。
- ・ユダヤの人はまだ三歳の子どもに聖書を読み聞かせ、静かに聞いたら聖書にハチミツをかけて舐めさせるつてのに感心しました。
- ・律法の行いによつてキリスト・イエスを信じるわけではない。自分たちで信じる。
- ・主イエスは私たちが本当に必要なものを私たち以上に「存じていてくださるお方」。
- ・我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
- ・夢とビジョンの人となる。
- ・逃げないで、辛いことに向き合いなさい。そうすれば、いつか幸せが来る。
- ・霊が語らせるままに、他の国々の言葉で話し出した。
- ・私には金銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によつて立ち上がりなさい。
- ・主である神様が、他の誰でもない、この私のために私の人生に登場してくださるのです。その神様を見上げて歩いていきましょう。

- ・人は人を許すことが難しい。
- ・元氣を出しなさい。あなたの罪は許された。
- ・神様の言葉は元氣の源。
- ・誰がなんと言おうと、神から見たら私たちは尊い存在。
- ・奇跡を信じれば起こる。
- ・神様の義を守っていれば、何の心配もいらぬ。
- ・神の喜び。
- ・神様は、いつも共にいてくださる。
- ・あなたが私を選んだのではない。私があなた方を選んだ。
- ・あなた方が人の知恵によつてではなく、神の力によつて信じるようになるためでした。
- ・イエス様は私たちのすぐそばにいつもいてくれる。
- ・私たちの中で誰一人として、自分のために生きているものではなく、また自分のために死ぬものもありません。もし生きているなら主のために生き、もし死ぬなら主のために死ぬのです。だから、生けるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。
- ・なぜこうなつたのだらう？ と思つたら、その場でまず調べるのが大切。
- ・平和を實現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。
- ・神の靈によつて語る人は誰もイエスは神から見捨てられよとは言わないし、また聖靈によらなければ、誰もイエスが主であるとは言えないのです。
- ・根氣よく祈り続けなさい。
- ・私は葡萄の木、あなた方はその枝でやる。
- ・喜ぶ人とともに喜び、泣く者と共に泣きなさい。
- ・限られた時間のうち、あなたは何がしたいのか。
- ・愛されることは幸せ。

- ・お前は自分で労することも育てることもなく、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのとうごまの木を惜しんでいる。それならば、どうして私が、この大いなる二ネベを惜しまずにいられるだろうか。そこには十二万以上の右も左もわきまもない人間と、無数の家畜がいるのだから。
- ・イエス様は、十字架にかかるために、生まれてきた。
- ・もし完全になりたいのなら、行つても売り払い、貧しい人々に施さない。そうすれば、天に富を積むことになる。それから私に従いなさい。
- ・居場所さえあれば、そこに仲間がいて寂しくなくなるのではないか。
- ・私の戒めはこれである。私があなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい。
- ・心は神様の御言葉を聞くところなのです。神様はあなたの心をロックしているのです。
- ・友達や家族の温かい言葉で安らかになる。
- ・剣を持った人は、頼もしい。
- ・私の主、私の神よ。
- ・ペンテコステ。
- ・私はあなたとともにいる。あなたがどこへいっても、私はあなたを守り、必ずこの土地に連れて帰る。
- ・誰でも乾くものは、私のところに来て飲むが良い。私を信じる者は、聖書に書いてある通り、その腹から行ける水が川となつて流れ出るであろう。
- ・剣を鞘に収めなさい。剣を取るものは皆、剣で滅びる。
- ・人と比べてしまうのは、神様の評価が分からなくなり、人と比べて満足しようとしているから。
- ・神様は、愛するものをしつかり懲らしめる。
- ・本当に癒されるとは？ 五つのDのような言い訳をしない。だって、でも、だから、どうせ、でいい
- ・自分の宝は、天に蓄えなさい。
- ・何度でも新しく。
- ・主はいつも私のそばにおられる。



- ・我が主よ、どうぞ僕の家立ち寄って足を洗いお泊まりください。
- ・自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。
- ・人間が生まれると言うことは、神様のおかげ。
- ・神様は、私たちを差別しない!!
- ・中心にいるものは神様。
- ・最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。丸一日、暑い中を辛抱して働いた私たちと、この連中と同じ扱いをするとは。
- ・私たちは神様に見守られている。
- ・互いに許しあいなさい。
- ・体の中で比較的弱いと見られる器官かえって無くてはならないものなのです。
- ・言葉では言い尽くせない贈り物について神に感謝しています。
- ・祈り、捧げる。
- ・死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかつたはずです。
- ・主は生きる水。その水を飲み、主の子になりなさい。
- ・神は来て、あなたたちを救われる。
- ・主はいつも私たちを見守ってください。
- ・私もあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。

付録四 教会に行つて感想 教会レポートより

・久しぶりに出席した教会は優しい方ばかりの心温まる場所でした。説教を聞いての感想は、私たちはパリサイ人や律法学

者たちのことは悪く言えないと思えました。なぜなら、私たち人間は社会的動物であり、他人とのつながり、自分の見栄ばかりを気にしています。それはもう本能とも言えるくらいはつきりと。だから、とても難しいことではあると思うのですが、私たちは他人とのつながりばかりを気にするのではなく、神の目を気にすることが大事なんだと思えました。まずは、神様が常に見てくれていることを忘れないで過ごすことが大切だと思えました。

・高校三年生となり、来年の生活や未来が今までよりもさらにはつきりとするものが多くなりました。それとともに、これをするのも最後と言うのも増えました。女子聖学院の生徒として、また、女子高生として最後……制服や行事、友人や先生方、授業や会話など……。楽しみなことでも多くあるように思います。

私は教会に行き始めたのは、一歳頃のこと。約二十年近く、教会に通えていることが本当に嬉しいことだなあと思います。楽しいことも悲しいことも、嬉しいことも大変なことも……すべて神様がおられるから今があり、私があり、周りの人たちがいて、様々なことが起こって……まだまだ目の前の道は長いですが、これまで歩んできた道一つ一つすべてにおいて意味があると言うことに感動し、驚きました。

最後となるものごとが多い今年。いろいろなことを考えて、一喜一憂してしまう私ですが、そうしている時間ももったいないし、何よりも神様と言う最高で最強の味方がいてくださる。だから今も今までもこれからも、絶対大丈夫と言う確信を持って、一步一步踏み出していきたいと思います。どうかこれからの一瞬一瞬も神様と共に歩んで行けますように……。

・受験と言う大きな試練の前に、心の余裕がない、いつぱいいつぱい……そんな時、教会に行くことと心が落ち着き、神のご計画の家にあるのだから、信じて、毎日を過ごし、感謝していれば、きつと大丈夫だと思えました。教会の皆さんはどんなに会っていないなくても、私のことを覚えてくださいますし、あと私のことを祈っていると行ってくださいます。そう言われるたび、心の内側がじわつと暖かくなり少し瞳が潤みます。私はクリスチャンではないので、少し行っていないと私は外側に入るように思ってしまうますが、そんな中でも覚えていられるよ、祈っているよ、と言っていただく言葉が、他のどんな言葉とも違う色味や温かみを与えてくれます。教会に行くといつも同じ人たちが、いつもと変わらず、あの暖かさとともに笑顔でどんな私でも受け入れてくれます。これがイエス様が世界中に作ってくださった家なんだと思ひ、なんだかほつとしました。きつとこれからはあまり行けませんが、忘れないでいたいのです。

・今回で教会レポートが最後ということであろうと思っております。私が初めて教会に行ったのはこの学校に入ってからだったので、もしこの学校に入ってなかったら私は日曜日に教会へ行つて礼拝をするという経験はしていません。私は日曜日に早起きするのはあまり得意ではないので、毎週行っていたわけではありませんが、日頃の礼拝でも私は賛美歌を歌うことが好きなので、教会に行つて知っている賛美歌や、初めて聞いた賛美歌を歌つて賛美することはとても好きです。なので、レポート提出はなくても、行ける日には、また大人になつても教会に行きたいなと思います。

(二〇一六年六月二十日、「教会と聖学院との懇談会」発題)